書くこと 3

正確に書き写せない

全 … 学級全体に対する指導や支援

個 … 個人に対する指導や支援

スペルミスをする場合

①文字の大きさを調節して見やすくする。全・個

黒板に例文を示すだけでなく、児童が手元で見られる手本を用意する。教科書やピクチャーディクショナリーなどでは文字が小さく読みにくいことがあるので、タブレット端末を活用して見やすい文字の大きさに調整することも考えられる。

②つづりを確認しながら書き写させる。個

“book”を“bok”，“salmon”を“samon”，“sea”を“se”と書くなどのスペルミスでは、つづりを意識せず音を頼りに書いていることが考えられる。書き写す際に，“b-o-o-k, book”とつづりと読みを一緒に示し、つづりを意識させるようにする。

③文字の特徴をつかませる。個

4線にうまく文字が書けない場合は、文字の線の書き始めの位置や終わりの位置がどこかを意識させる。4線で捉えるのが難しい場合は、基線と第2線のみ示すなど、線の数を減らしたワークシートを活用してもよい。「bとd」や、「pとq」を書き間違えるなどのスペルミスは、文字の特徴をつかめていないことが考えられる。「バットを立てたら右にボールでb」「qは数字の9を基線にさす」のように、文字の特徴を覚えやすい言葉にして示してもよい。

英語と日本語の表記方法の違いに気付いていない場合

①英語では単語を1つずつ区切って書くことを示す。全・個

日本語の表記方法に慣れているために語と語を続けて書いてしまうことが考えられる。英語では単語を1つずつ区切って書くので、語と語の間にスペースを取るように指導する。その際、「1文字分空ける」など、適切なスペースの目安を示す。

②どのような時に大文字で書くかを示す。全・個

文の先頭、人名・地名、自分を表す“I”など、どのような時に大文字で書くかを、英語を書くときのルールとして示しておく。

③句読点ではなく「,」や「.」「?」を使うことを示す。全・個

文末に「。」を書き忘れることが考えられる。英語でも日本語と同様に文の終わりには記号を書くこと、句点ではなく「.」や「?」を使うことを、英語を書くときにルールとして示しておく。また、“Yes, I do.”や“No, I don't.”などを例に、英語では読点の代わりに「,」を書くことも、形の違いとともに示しておく。